



ふるさと小豆島の猪鹿垣をたずねて

—ビデオ発表—

奥田政喜

(小豆島の猪鹿垣を考える会々員)

ふるさと小豆島の猪鹿垣の立派さを知る

私が、猪鹿垣に関心をもつようになったのは、十年ほど前の中学同窓会で、恩師の港誠吾先生（現・小豆島の猪鹿垣を考える会々長）にお会いしてからです。翌日、先生のお宅にお伺いし、猪鹿垣遺構実測図集等を見せていただきながら、いろいろなお話しをおうかがいしました。そのとき、島の猪鹿垣の思いがけない立派さに気づかされるとともに、遺構実測調査への先生のご熱意に驚かされました。その後、事情があつて、私は東京の自宅から島の実家へ年に数度帰り、そのつど一ヶ月とか二ヶ月を過ごすという生活を繰り返すこととなりますが、その間、島の方々と触れ合える幾つかの会に加わることができ、「小豆島の猪鹿垣を考える会」にも参加させていただくこととなりました。

猪鹿垣のことは、住んでいた地区のものは、子供の頃からよく知っていましたが、島の他の場所のことは殆ど知らず、とくに関心もありませんでした。しかし、先生の説かれる郷土の文化財としての猪鹿垣遺構の大切さがよくわかり、また自身のふるさとについての勉強にも役立つものと興味を惹かれていきました。

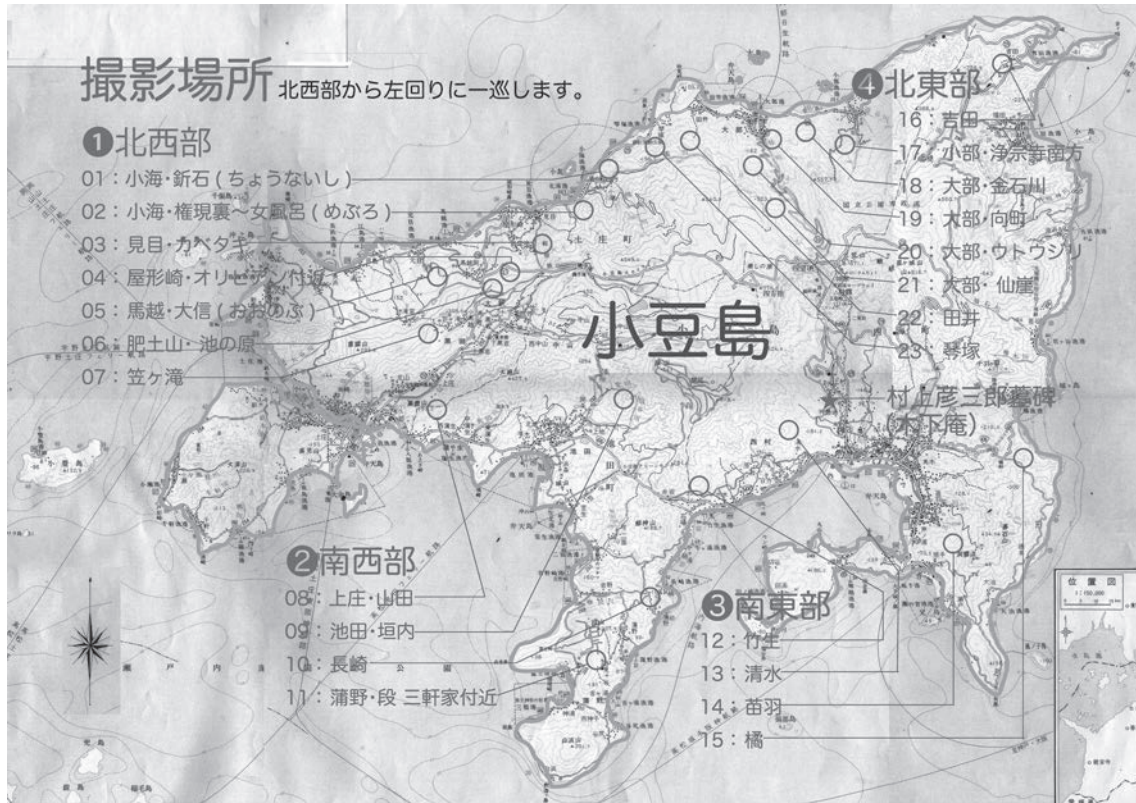
そんなわけで、以前からの趣味である山歩き、里歩きを、島に滞在する間も続けていましたので、猪鹿垣らしきものを山中で見かけると、すぐにデジカメを向けるようになりました。が、しかしそれが猪鹿垣なのか、只の石塁、土塁であるのかはよくわからない場合が多いこともすぐに知ることになります。

猪鹿垣の今をデジカメビデオに

ここで取り上げたものは、港先生の実測調査の現場に参加させていただいたときの記録や、先生に在所と見どころを教えていただいたもの、或いは直接ご案内いただいたものです。また、川井和朗先生、森本勝さんや笠井修司さん、武部広文さんなど、「考える会」の方々にもご案内や多くのサゼスチョンをいただきました。

私は研究者というわけではありませんし、映像表現のプロでもありませんので、上手な表現はできませんが、ふるさと小豆島の山中に埋もれている貴重な文化財としての猪鹿垣遺構。その今の姿を現実には見に行けない方に、現場の一端を御覧いただけたらと思います。

全島をぐるりと巡る猪鹿垣遺構のうち、20数カ所を取り上げます。機材は、普通のデジカメです。動画と静止画を取り混ぜていますが、動画音は風切り音の雑音が多いので殆どを消去し、適宜BGMを加え、30分ほどのビデオにしました。説明等のテロップはあまり入れておりません。途中、言葉で補足します。



■ 撮影場所/撮影日（地図）

1: 北西部

<11/01/21, 11/02/17, 12/12/26, 13/01/09>

(01) 小海・鉦石 (02) 小海・権現裏～女風呂
(03) 見目・カベタキ (04) 屋形崎・オリビアン
(05) 馬越・大信 (06) 肥土山・池の原
(07) 笠ヶ滝

2: 南西部

<08/12/30, 11/01/26, 12/12/19, 13/03/30>

(08) 上庄・山田 (09) 池田・垣内 (10) 長崎 (11)
蒲野・段 三軒家付近

3: 南東部

<13/01/30, 13/04/10>

(12) 竹生 (13) 清水 (14) 苗羽 (15) 橋

4: 北東部

<11/02/01, 12/02/05, 13/01/15>

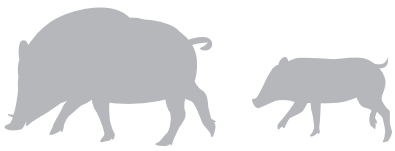
(16) 吉田 (17) 小部・浄宗寺南方 (18) 大部・
金石川 (19) 大部・向町 (20) 大部・ウトウジリ
(21) 大部・仙崖 (22) 田井 (23) 琴塚



写真：田井地区。北部海岸沿いの集落の耕作地を護る。横一列に延々と伸びている。



写真：小海・鉾(ちょうな)石付近。昇龍のように急斜面を駆け上る。積み石は横に寝かせ、重力が均等にかかるように重ね継ぐ。花崗岩質の野面石や割石を使った地場の築石技術。



写真上左：小海・女風呂（めぶろ）。木戸口跡がのこる。

写真上右：見目・カベタキ。巨石を惜しげもなく使用。この裏側の雑木林には段々畑を仕切る石垣が累々とのこり、猪鹿垣の目的がわかる。

写真下：苗羽（のうま）。山肌を這う手馴れた力強い石積みの姿は圧巻。最高部は2m近い。